

1 生理検査における危機管理について  
2 (患者急変時の対応)  
3

4 ○岡靖子 野田多喜子 永瀬祥子 市原禎恵  
5 伊藤和男 広橋いつ子 (社会保険船橋中央病院)  
6

7 **【はじめに】**当検査室において、生理検査を施行中  
8 に患者が突然急変し、その対処・判断に戸惑うこと  
9 が年に数件程度発生している。また、日当直、出張  
10 検診等では技師が一人で、医師に異常を伝えるかど  
11 うか判断に迫られる場面が時々起きている。更に  
12 検診時の超音波等で、結果によっては至急で医師に  
13 連絡する事例が多く発生している。この様な患者急  
14 変時の技師の対処、対応について改めて当院での現  
15 状を把握、整理してみた。また医師、技師に対して  
16 アンケートによる意識調査を実施し、その結果より  
17 日常業務における問題点、及びその対策、今後の課  
18 題について検討したので、報告する。

19 **【現状】**当生理検査室において患者急変に遭遇する  
20 と思われる検査には一般心電図、負荷心電図、心エ  
21 コー、肺機能検査などがある。患者急変時には呼吸・  
22 脈拍・意識レベルのチェックを行いながら最寄りの  
23 医師・看護師に連絡をとり、時にはCPRコールを  
24 使用しその判断を仰ぐのがベストであるが、その伝  
25 達方法は時として混乱してしまうことも予想される。  
26 また検査に気をとられ発見が遅れてしまう危険性も  
27 考えられる。

28 日当直、出張検診時には生理検査専属以外の技師も  
29 担当する為、心電図波形の判断に不安も残る。更に  
30 医師の想定外の重篤な病状を発見した場合、どの医  
31 師にどの様に伝えるのか迷う場面が見受けられる。

32 **【今後の課題】**急変患者の発生は当院では稀な為、  
33 普段より緊急の際の処置・対応・ドクターコール等  
34 の手順の確認と徹底をしておく必要がある。又、医  
35 師と技師との意識、要望のずれを認識し、勉強会な  
36 どで知識の習得のみならず、実践してみることが重  
37 要と思われる。

38 連絡先：047-433-2111  
39